



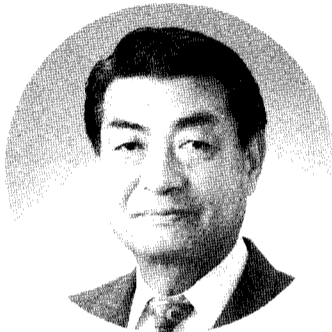
500号記念特集号

小須戸公民館報

発行所 小須戸町公民館
発行人 岡謙吾
発行日 毎月15日

「公民館報」五〇〇号

発行をお祝いして



小須戸町長
佐藤太加志

小須戸町公民館は、発足して四十七年、その前進の文化協会時代を含めると、まさに半世紀、五十年の間、歴史と実績を積み重ねてまいりました。

その足跡は、そのときどきの世相やニーズを的確にとらえ、地道な活動と運営を続けながら、当町唯一の文化的な町民ふれあいの機関として発展してまいりました。

そして、それらの活動について広報し、町民の文化的志向の高揚に、大きな役割を果たして来たのが公民館報であります。

その館報がここに五〇〇号の発行を迎えましたことは、誠に意義が大きい、関係者各位の並々ならないご努力・ご尽力に、対し深甚なる敬意を表する次第であります。

いまや公民館報は、町民にとって最も身近な茶の間の情報紙として、また社会教育の発掘紙として欠かせないものとなっております。

常には紙面は僅か一枚二ページとコンパクトなスペースではありますが、創刊時の「文化協会報」以来、数々の工夫と改善を重ね乍ら、今日の見事なまでの、内容豊かな、親しみ溢れる広報紙として定着されましたことは誠に同慶に存じます。

五〇〇号の発行を祝して

教育長

高橋謙司



小須戸公民館報が昭和二十四年十月一日に創刊されてから、このたびめでたく五〇〇号の発行を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

同時に、現在まで発行のお仕事で並々ならぬご努力を重ねてこられました歴代関係の方々に対しまして、心からの敬意と感謝を申しあげます。

この館報は、昭和二十一年十月に文化協会が発行された「小須戸文化」がその原点になっていくので、その後幾多の変遷を経ながら、今日のような

編集、内容共に充実した小須戸公民館報として育ってきたわけでありました。

創刊当時は、県内初めての、文字通り草分けの広報紙として注目されたこととあり、創刊当時の様子について間野良知氏は、「まず紙を入手することが大変でした。町費もではい

たんでしたが、住民やスタッフがいろいろ持ち寄って自主的に作っていたようなものでした。」と語っておられました。

館報五〇〇号の発行に当たって

中央公民館長

岡謙吾



昭和二十四年十月一日、県内の公民館では初めての館報が「公民館報こすど」として発行され、そしてこのたび、記念すべき五〇〇号を特集して発行することができました。この間実に四十七年、誠に感無量のものがございます。

昭和二十四年当時は、戦後の傷跡がまだ残っており、その頃の館報に「配給だより」として、醤油三合、味噌二六〇匁、砂糖反斤予定、食用油一合五匁(数字は一人当たりの配給量)と記されていた。また各商店の広告が掲載されており、当時主食類はいづれも配給制で自由

なかつたために、行政関係の記事も配慮しながら編集していたとのことです。ご苦労もあり、大変大きな責任を果たしてこられたことになりました。

このように、当初から一貫して、常に「町民のための広報紙」として全精力を傾注してこられましたことに、誠に頭のさがる思いがいたします。

公民館報の移り変わりはそのまま公民館活動の変遷の姿そのものであらうと考えられます。小須戸町公民館が、常に厳しい条件下におかれながらも、その時代その時代における変化を社会の要請に応えられて、町民一人一人の暮らしと学習に大きな役割を果たしてまいりました。

これからも、地域住民の生涯学習の拠点として、益々充実し発展してまいりますよう、心からお祈り申し上げます。

このことに加えて、当初は「だより」が発行されていた

の皆様方が、いづれも優れた先人、そして良き先輩であったことと、常に館報に対する町民各位の暖かいご支援を賜った結果でありまして、あらためて皆様方に心から厚くお礼を申し上げます。これからあります。

これからの社会は、高齢化、国際化そして情報化の中で皆様方の余暇時間は確実に増大してまいります。このような社会変革に対応した公民館報に充実するるとともに、公民館は地域住民の学習拠点として施設の整備と内容の充実にも、生涯学習の成果が町おこし、人造りに、そして文化やスポーツの振興に寄与することが可能な「生涯学習社会」の構築を目指して公民館を運営してまいります。どうぞこれからも皆様方には従来同様、相変わらぬご協力とご理解を下さるようお願いを申し上げます。館報五〇〇号発行のご挨拶といたします。

たちの町づくり

「こういう町になるといいなあ。」

月一回の「小須戸公民館報」が新しい記録をつくりました。
約四十七年間にわたり、発行し続け、五〇〇号を迎えることができました。
これを記念して座談会を開き参加者の方々からお話していただきました。

町の自然に触れて：

司会：今日は、館報発行「五〇〇号」を記念しての座談会を開きます。テーマは「町づくりについて」です。まず始めに、町の自然について語っていただきたいと思います。
渡辺(吉)：私は「せせらぎの森」を見てきましたが、素晴らしいところですね。前に写真を撮りに行った時、植物調査員に出会いました。その方の話では「菩提寺山は植物観察のための宝庫だ。」という話でした。
このことを皆さんから理解して頂き保護していくにはどうしたらよいか常々考えています。どうでしょうか？

司会：ご出席の方はご存じてでしょうか。
渡辺(吉)：私も前に植物を研究している方に出会って珍しい植物を教えてくださいました。それを守るために遊歩道の工夫や看板の設置や保護計画が必要だと思っています。
渡辺(吉)：山や植物を知らない人へのPRも必要です。
司会：町民の意識調査を見ても自然観察・自然を愛するという面で小須戸町の植物や自然をどう守るかを考えなければいけません。
渡辺(吉)：「せせらぎの森」は八割程度完成しているのだから保護を早急に対応しなければなりませんね。
渡辺(吉)：菩提寺山を共有している新津市・五泉市・小須戸町でどう計画を推進するのがよいかを調査して推進するのがよいと思います。「下手な開発は

と違います。
馬場：植える「花」を選定したほうが良いですね。今後の方針として。
中野：「山」は自然が大事です。保護するため看板や柵を全部取り付けるのは難しいと思います。身近かに手をつけることとして、商工会では秋に空缶拾いを実施しています。子供たちも一緒に空缶拾いに参加しています。こういった形で子供たちを交えて自然保護の意識付けをやりたいと思います。
金沢：素晴らしい意見で私も同感です。

住みよいく町づくりを

司会：「四〇三号バイパス」「住宅」「河川」「花の湯館」「花とみどりのシンボルゾーン」これらについての皆さんの夢はどうでしょうか？
渡辺(吉)：花の湯館へ行ってきましたが、町外の利用者が大勢来ていたのがビックリしました。せめて、ここで軽食がとれたらいいなあと思いました。
加藤：はい。ある人は長岡から来たという人もいました。私は農協婦人部に入っていて婦人部では「ふれあい夕方市」を開設して野菜等を即売しています。
この市は花の湯館利用者から大変喜ばれています。
司会：私も利用者、特に町外の方が大勢来館しているのを聞いています。六月二日現在では、十五万四千人の利用者数とのことでした。
古木：道路のことですが、四〇三号開通に期待しているところですが、交通の流れが変わったなど思っています。
司会：道路一本できると交通体系がガラリと変わりますね。そのため新たな事故も起きてい

ます。
金沢：バイパスの事で要望があります。僕の通学路であるのですが、交通量が多い。特に鳥居さんの交差点道路は危険がいっぱいなので何とかしてもらいたいんです。
中野：施設の維持管理をどうするのかが重要なことです。これからは、維持管理と活用を重点に掲げる必要があります。札幌市のように電柱や看板がない、自然環境と美しい町並みの構想を強く願っています。
馬場：開発のやり方があると思います。その開発により農業用道路が開発道路として使われ、大型ダンプが走っています。そういう面で開発と自然を厳しく規制することのバランスも考慮しなければなりません。
保科：花の湯館、駅裏開発と農業、自然とのバランスが大切だと思いました。特に、二十一世紀には食糧難が押し寄せると言われていますが、農業面においても切実な問題になるということも忘れてはいけないと思います。
館長：山・川・四〇三号線の三つが基本となった開発を進めていくことになっていくでしょう。四〇三号線と矢代田線の近くに先行投資して十坪程度の土地を購入して、行政ゾーン・文化ゾーン・ふれあいゾーンを確保することが必要ではないでしょうか。

渡辺(吉)：館長さんの言われるように全体を見通していかないと、四〇三号線と分断されるとせっかくの「花とみどりの館」などが生かされない心配があります。
渡辺(吉)：町として将来のために大事な考え方です。
中野：「花と緑の

小須戸町のキャッチフレーズを推進するためにも一言お話しします。オレンジでは、電柱がありません。又イベントである「花のオリンピック」は十年前から会場作りをしている。その中に博覧会が十年後にできるというある程度長い先まで見越した町づくり構想を作り上げていくのが必要ではないか。より良い町になつたらいいなあと思います。
小林：私は、これからの子供たちが住みよいくから仕事で出ていっても、じータンして帰ってくる様な町でいたいなあと思います。

これからの福祉は：

司会：続いて、社会福祉の充実した町づくりについてお話を伺いたいと思います。
小須戸町では、各家庭に配布されていますパンフレットのように、町の福祉事業について詳細に載せてあります。高齢化が進むことは間違いありません。町の考え方は「明るく、生き生きとした活力のある町づくり」を目指しています。デイサービスセンターが出来、利用されている方も多く聞いています。又、来年度には隣に「シルバーハウジング」が出来るといふことで、高齢化対策も着実に進められています。

渡辺(吉)：館長さんの言われるように全体を見通していかないと、四〇三号線と分断されるとせっかくの「花とみどりの館」などが生かされない心配があります。
渡辺(吉)：町として将来のために大事な考え方です。
中野：「花と緑の

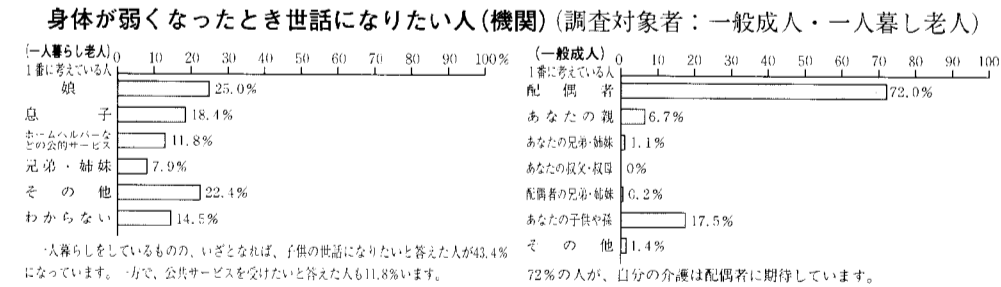
と違います。
馬場：植える「花」を選定したほうが良いですね。今後の方針として。
中野：「山」は自然が大事です。保護するため看板や柵を全部取り付けるのは難しいと思います。身近かに手をつけることとして、商工会では秋に空缶拾いを実施しています。子供たちも一緒に空缶拾いに参加しています。こういった形で子供たちを交えて自然保護の意識付けをやりたいと思います。
金沢：素晴らしい意見で私も同感です。

司会：「四〇三号バイパス」「住宅」「河川」「花の湯館」「花とみどりのシンボルゾーン」これらについての皆さんの夢はどうでしょうか？
渡辺(吉)：花の湯館へ行ってきましたが、町外の利用者が大勢来ていたのがビックリしました。せめて、ここで軽食がとれたらいいなあと思いました。
加藤：はい。ある人は長岡から来たという人もいました。私は農協婦人部に入っていて婦人部では「ふれあい夕方市」を開設して野菜等を即売しています。
この市は花の湯館利用者から大変喜ばれています。
司会：私も利用者、特に町外の方が大勢来館しているのを聞いています。六月二日現在では、十五万四千人の利用者数とのことでした。
古木：道路のことですが、四〇三号開通に期待しているところですが、交通の流れが変わったなど思っています。
司会：道路一本できると交通体系がガラリと変わりますね。そのため新たな事故も起きてい

ます。
金沢：バイパスの事で要望があります。僕の通学路であるのですが、交通量が多い。特に鳥居さんの交差点道路は危険がいっぱいなので何とかしてもらいたいんです。
中野：施設の維持管理をどうするのかが重要なことです。これからは、維持管理と活用を重点に掲げる必要があります。札幌市のように電柱や看板がない、自然環境と美しい町並みの構想を強く願っています。
馬場：開発のやり方があると思います。その開発により農業用道路が開発道路として使われ、大型ダンプが走っています。そういう面で開発と自然を厳しく規制することのバランスも考慮しなければなりません。
保科：花の湯館、駅裏開発と農業、自然とのバランスが大切だと思いました。特に、二十一世紀には食糧難が押し寄せると言われていますが、農業面においても切実な問題になるということも忘れてはいけないと思います。
館長：山・川・四〇三号線の三つが基本となった開発を進めていくことになっていくでしょう。四〇三号線と矢代田線の近くに先行投資して十坪程度の土地を購入して、行政ゾーン・文化ゾーン・ふれあいゾーンを確保することが必要ではないでしょうか。



左から渡辺(吉)さん、加藤さん、金沢さん、保科さん、古木さん、小林さん



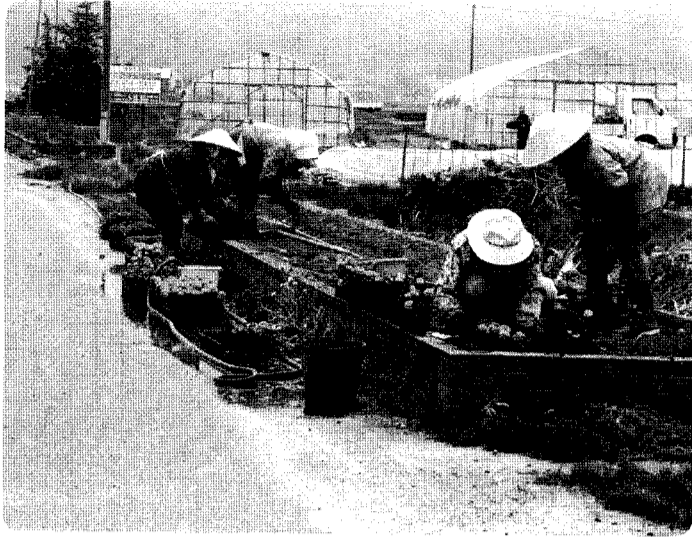
- ### 座談会の参加者 (順不同：敬称略)
- | | |
|--------|------------------|
| 文化協会 | 渡辺 吉夫 (写真クラブ) |
| | 加藤 由紀子 (コールあじさい) |
| 体育協会 | 古木 堅作 (野球連盟) |
| | 小林 洋美 (テニス協会) |
| 商工会 | 小中 利久 (青年部) |
| | 小金 見子 (婦人部) |
| 新津南高校 | 金保 学 (高校3年生) |
| | 渡辺 美英子 (高校3年生) |
| 編集委員 | 麻道 謙久 (教育課長) |
| 公民館長 | 岡 吾則 (社会教育指導員) |
| アドバイザー | 渡辺 高志 |

小見：私は最近父を亡くしました。その際、ホームヘルパーさんから大変お世話になり感謝しています。もつとこういう制度があることを知らせることが重要だと感じました。介護等については何も知らない私がお手伝いを受けて小須戸に住んでいて良かったと実感しています。商工会婦人部としても、自分たちができることを掲げています。
その中の一つに「社会一般の福祉の増進に努め豊かな町づくりの担い手になろう」という項目があります。その項目の一環としてアルミ缶の回収をやつていて、昨年は町の福祉施設に車を寄贈しました。非常に喜ばれまして自分たちの出来ることから始めようということによって一生懸命集めています。このような気持ちづくりが大事なんだと痛感しています。
館長：おそろく、デイサービスセンターも将来的には、もう一ヶ所くらい必要になるでしょう。が、しかしこれからの福祉の在り方は最小限の施設あるいは職員を配置するけど、その不足し

公民館報500号記念座談会

わたし

◆～みんなて語る～



1人1人の気持ちが町全体の顔に
変わってきます。

た部分はボランティアでもって介護する。いわゆる福祉ボランティア活動も重要になってきます。このことでは、小・中・高生の皆さんがボランティアの希望が多いということは大変嬉しく思っています。

保科：私の夢というか希望は、福祉関係の仕事をしたいなあと思っています。受検勉強も大事ですが、福祉の仕事ってどういうものがあるか分かりませんので、中高生を対象に見学させてもらいたいと思います。友達も聞いてみたんですが、あまり知りません。私は、本当にボランティア活動したいと思っています。もし、私が福祉関係の仕事に就くことができたら、町のために仕事をしてみたいと思っています。一番重要なことは、若者がこの町に残っていくことが高齢化社会に目を向けることではないでしょうか。



左から渡辺(怜)さん、間野さん、岡館長、渡辺課長、小見さん、中野さん

司会：保科さんには是非頑張っていただきたいし、ボランティアにも積極的に体験してもらいたいです。

馬場：そういうことであれば、一人でも二人でも希望者は足を運んでみて欲しいと思います。

金沢：これから高齢化が進む中で僕はこう考えます。もともと不足しているホームヘルパーさんや施設を使わないためにはどうするか？これからお年寄りになる人達が健康を保ち続けられるか？これが健康を保ち続けられるか？これが健康を保ち続けられるか？これが健康を保ち続けられるか？

司会：文化、スポーツの面ではいかがでしょうか？

古木：歴代の町長さんはスポーツ好きで、ナイターリーグ戦も回を重ねること二十三年になりました。よく、町長さんからの祝辞の中で「活力のある町づくり」ということを言われます。環境問題から始まって良い環境のところに活力が湧いてくると思うのですが、環境だけで生まれてこないだろうし、町が一丸となって子供の時から体力づくりに努めることも大事かと思えますね。こういうものが積み重なって活力が生まれてくるのではないのでしょうか。また、小須戸は新潟百万都市構想の中

やサークルを作っていくれば喜んでその団体やサークルに入る人たちが出てくると思います。なるべく早く設立していただきたいと願っています。

中野：矢代田のふれあい公園の機会に新潟の球場を願うのもです。

司会：巨額な投資で施設を作っても、その後の維持管理も大きなポイントです。

間野：最近、地方自治の広域化の面で、隣の市は市の人達が使うといった考え方が多くなったが、全くそういう時代ではなく、社会教育とりわけ中央公民館が行っている教室や講座にも広域的に参加している人もいます。行動範囲が広がったのではないのでしょうか。

渡辺(怜)：確かに広域化が必要になったと思います。隣の市町村同士お金を出し合って低料金で使う。例えば、隣の市町村の文化会館を借りるといふことであれば車でもいけるし、音響・照明等いい所であれば全体的に文化水準の向上にもつながると思います。これからの若い世代にはもっと大切で、中野：私もそう思います。他に便乗できるような文化施設があればいいですね。これまでは、教える人がいて、習う人がいる。しかし、もっと多様な内容が望まれる時代になり、これからは総合学習体制(互いに教え合うものを出し合う)を図っていかなくてはなりません。

小須戸保健医療福祉計画(抜粋)

| 区分 | サービス目標水準 | | | 平成11年度サービス目標量 | 平成11年度サービス提供体制 | 現況(平成7年度) |
|-------------|-----------------------|---|---|--|--|-----------------------------|
| | 高齢者 | 若年者 | 障害者 | | | |
| ホームヘルパーサービス | 週1回 | 週3回 | 年間18,970時間 | ホームヘルパー 18人(常勤換算) | 町社協常勤 7人 | |
| デイサービス | 週1回 | 週2回 | 年間延べ5,968人 | ・デイサービスセンター 2施設 ・中学校区単位を基本に整備 | 1施設 延べ人数 1,650人 | |
| ショートステイ | 年2回 | 年6回 | 年間 2,304日 | 7床 ・広域の特別養護老人ホームに確保を図る。 | 年間 386日 | |
| 機能訓練 | 年24回 | 2会場 | 年間延べ 901人 | ・保健センターの整備 ・送迎手段の充実 ・保健婦、理学療法士等の確保 | 年間1会場延べ33人保健センター他送迎あり | |
| 訪問指導 | 年3回(174) | 年6回(450) | 年3回(45) | 年間延べ 669人 | ・保健婦の増員 ・医師との連携 ・産科医師との連携 ・在宅歯科衛生士の確保 | 保健婦 3人 年間 234人・連携件数 417件 |
| 訪問介護指導 | 年1回 | 年1回 | 年間 34人 | ・栄養士の確保 | 事業未実施 | |
| 訪問栄養指導 | 年1回 | 年1回 | 年間 22人 | ・保健婦等の増員 ・地区組織等との連携を密にし、充実を図る。 | 年間 21回 参加者 515人 | |
| 健康教育 | 一般 22回/年 重点 23回/年 | 一般 22回/年 重点 23回/年 | 一般 22回/年 重点 23回/年 | ・保健婦等の増員 ・地区組織等との連携を密にし、充実を図る。 | 年間 44回 参加者 423人 | |
| 健康相談 | 一般 105回/年 重点 19回/年 | 一般 105回/年 重点 19回/年 | 一般 105回/年 重点 19回/年 | ・保健婦等の増員 | 受診率59.8% 受診者数1,148人 受診率35.5% 受診者数 682人 受診率73.0% 受診者数1,401人 受診率31.7% 受診者数 609人 受診率53.1% 受診者数 317人 受診率15.9% 受診者数 152人 | |
| 健康診査 | 基本健康診査 | 60% | 受診者数 1,935人 | ・検診対象者の的確な把握 ・検診回数、会場の増設 ・スタッフの増員 ・啓発活動の充実により、未受診者の受診勧奨を図る。 ・事務職員の増員 | 16人入所・待機者15人 | |
| | がん検診 | 胃がん検診 40% 肺がん検診 78% 大腸がん検診 30% 子宮がん検診 35% 乳がん検診 10% | 受診者数 1,290人 受診者数 2,516人 受診者数 968人 受診者数 670人 受診者数 192人 | ・広域の特別養護老人ホームに対応する。 ・近隣の老人保健施設を整備し対応する。 | 1施設 1施設 1施設 1施設 | |
| | 特別養護老人ホーム | 老人11の1程度入所 | 入所者数 25人 | ・広域の特別養護老人ホームに対応する。 | 1施設 | |
| | 老人保健施設 | 老人11の1程度入所 | 入所者数 23人 | ・近隣の老人保健施設を整備し対応する。 | 1施設 | |
| | ケアハウス | 老人11の0.5程度入所 | 入所者数 12人 | ・広域のケアハウスで対応する。 | 1施設 | |
| 養護老人ホーム | 現状程度入所 | 入所者数 9人 | ・広域の養護老人ホームで対応する。 | 1施設 | | |
| デイサービスセンター | 中学校区に1施設を基本 | 2施設 | 2施設 | 1施設 | | |
| 在宅介護支援センター | 中学校区に1施設を基本 | 1施設 | 1施設 | 1施設 | | |
| 保健センター | 1施設 | 1施設 | 1施設 | 1施設 | | |

司会：巨額な投資で施設を作っても、その後の維持管理も大きなポイントです。

間野：最近、地方自治の広域化の面で、隣の市は市の人達が使うといった考え方が多くなったが、全くそういう時代ではなく、社会教育とりわけ中央公民館が行っている教室や講座にも広域的に参加している人もいます。行動範囲が広がったのではないのでしょうか。

渡辺(怜)：確かに広域化が必要になったと思います。隣の市町村同士お金を出し合って低料金で使う。例えば、隣の市町村の文化会館を借りるといふことであれば車でもいけるし、音響・照明等いい所であれば全体的に文化水準の向上にもつながると思います。これからの若い世代にはもっと大切で、中野：私もそう思います。他に便乗できるような文化施設があればいいですね。これまでは、教える人がいて、習う人がいる。しかし、もっと多様な内容が望まれる時代になり、これからは総合学習体制(互いに教え合うものを出し合う)を図っていかなくてはなりません。

馬場：教育委員会、公民館では県のセンターと直結して、「ラ・ネットシステム」を通じて町民の皆さんに情報を提供することも重要だと考え実施している段階です。詳細については今後公民館報でPRしていきます。

館長：生涯学習社会とは、それの人々が培ってきた生涯学習の成果を町づくりに更にはその町の文化やスポーツの振興に役立たせること、即ちあらゆる分野で活かすことが可能な社会ということであろうと思います。

司会：今日は皆さんから夢を語っていただきましたが、現実に近い夢も多く有意義な座談会であったと思います。

わたしたちの町民憲章にうたわれているように一人ひとりが町づくりに参加していこうという自覚をもって、これからの地域や職場に於ても町のために最大限の力を発揮して欲しいと思います。

司会：中学校からそれらと同じような要望が出ています。今後検討していきたいと考えています。

渡辺(怜)：サークルとかスポーツ団体はいっぱいありますが、自分に合った体力づくりが自由

司会：いつでも、どこでも、誰でも気軽に学び、教え合う生涯学習社会を進めなければなりません。これまでは、教える人がいて、習う人がいる。しかし、もっと多様な内容が望まれる時代になり、これからは総合学習体制(互いに教え合うものを出し合う)を図っていかなくてはなりません。

馬場：教育委員会、公民館では県のセンターと直結して、「ラ・ネットシステム」を通じて町民の皆さんに情報を提供することも重要だと考え実施している段階です。詳細については今後公民館報でPRしていきます。

館長：生涯学習社会とは、それの人々が培ってきた生涯学習の成果を町づくりに更にはその町の文化やスポーツの振興に役立たせること、即ちあらゆる分野で活かすことが可能な社会ということであろうと思います。

司会：今日は皆さんから夢を語っていただきましたが、現実に近い夢も多く有意義な座談会であったと思います。

わたしたちの町民憲章にうたわれているように一人ひとりが町づくりに参加していこうという自覚をもって、これからの地域や職場に於ても町のために最大限の力を発揮して欲しいと思います。

このことから町民の意識の変革が大事でしょう。

加藤：町のサークルに若い人が全然入ってこないんですよ。入って来てもらいたいですね。願っています。

館長：深刻な問題ですね。

馬場：リーダーの交替ができません。現状のままのメンバーで活動していくことになり、新しい風を入れる事が大事です。

総合学習体制の推進を

司会：いつでも、どこでも、誰でも気軽に学び、教え合う生涯学習社会を進めなければなりません。これまでは、教える人がいて、習う人がいる。しかし、もっと多様な内容が望まれる時代になり、これからは総合学習体制(互いに教え合うものを出し合う)を図っていかなくてはなりません。

馬場：教育委員会、公民館では県のセンターと直結して、「ラ・ネットシステム」を通じて町民の皆さんに情報を提供することも重要だと考え実施している段階です。詳細については今後公民館報でPRしていきます。

館長：生涯学習社会とは、それの人々が培ってきた生涯学習の成果を町づくりに更にはその町の文化やスポーツの振興に役立たせること、即ちあらゆる分野で活かすことが可能な社会ということであろうと思います。

司会：今日は皆さんから夢を語っていただきましたが、現実に近い夢も多く有意義な座談会であったと思います。

わたしたちの町民憲章にうたわれているように一人ひとりが町づくりに参加していこうという自覚をもって、これからの地域や職場に於ても町のために最大限の力を発揮して欲しいと思います。

《小須戸町民憲章》

恵まれた自然に感謝し
花と緑に愛情を
鍛えて健やかな心と身体を
豊かな教養と高い文化を
結ぶ力と助け合いの心を
仕事に励み生活に明るさを

横水分館運動会

暑さに負けずハッスル!!

「すげえーあつちえかったね」

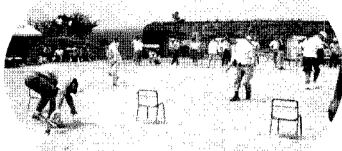
七月二十一日(日)横水保育園跡地広場に於て、横水分館運動会が開かれました。

横水地域(文京町・横川浜・小向・水田)の選手・応援に約二百名が集い、暑い中皆さん各種目ごとに大きな声援が飛び交っていました。

対抗種目や自由種目に計十六の競技を行い、各種目ごと選手は、我がチームの勝利のために大粒の汗を流しながら、ゴールを目指していました。



ヤッター優勝だー!



ガンバレー!ガンバレー!!

レースの展開は、水田チームがリードしていたものの、小向チームが逆転し、最後の二種目で水田チームが最逆転し、応援ベンチは大いに盛り上がりました。

優勝 水田チーム
準優勝 小向チーム
三位 横川浜チーム
四位 文京町チーム
選手、役員のみならず、大変くろうさまでした。

ちよこつと一言 (101)

「小須戸市はおいしいごはんの源です」
龍玄
小須戸に嫁いで間もない頃、母について行った小須戸市。それは市で買い物をするという初めての体験でした。初めのうちは混んでいる店で声を掛けるタイミングをつかめない等、スパーとの違いに戸惑いを覚えていました。でも、野菜・魚等が新鮮な所



がよいですね。一年中様々な野菜が出まわっている今、これら旬のおいしい食品は料理の腕をもカバールしてくれるのです。そして、店の人や時には見知らぬ人が「こうして食べるとうめえんだがね」と料理法をアドバイスしてくれたり、心暖まるコミュニケーションの場でもあります。今では無くてはならない存在となりました。

7月のナイスショット



12日 家庭教育学級「つくしんぼ。花とみどり館やせせらぎの森を見たり町内探訪してきました。

17日 おもしろ雑学講座「計る」ビデオプロジェクトを使って「計る」ことを認識した講座でした。

第十四回町民俳句大会作品募集
◎対象 町民及び町通勤・通学者
◎投期 当期雑誌(未発表)で、三句一組限りとする。
◎締切り 九月十五日(日)厳守
◎投句先 中央公民館及び投句箱
◎投句箱設置場所 矢代田駅・福祉センター
◎投句用紙 投句箱備え付け用紙又は同形のものを
(注)住所・氏名(雅号)は正確に
◎選考 町在住各俳句会同人十名の合点による
◎発表 十一月二日からの文化祭会場及び発表紙(有料)
◎表彰 町長賞・議長賞・教育長賞・中央公民館長賞
◎主催 小須戸町俳句同好会
◎後援 文化協会・中央公民館外
◎応募お待ちしております!!

催し物案内

九月のおもしろ雑学講座

テーマ「老人痴呆とその対応」

日時 九月十三日(金)
午後七時三十分から九時
会場 中央公民館 階会議室
お話し 森平順子さん
(医師)

スポーツ大会結果

新潟県スポーツ少年団 下越地区バドミントン大会

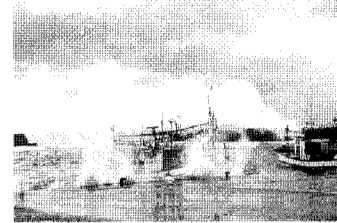
(団体戦)
二位 小学生女子
一位 小学生女子
二位 小学生女子
三位 中学生男子
三位 中学生男子
一位 石川雄規くん
二位 松田重吉さん
三位 高野孝子さん
四位 高野孝子さん
五位 美貴子さん
以上の選手が県大会へ出場

「ふれあい電話相談」

九月の相談日

六日(金)・十三日(金)・二十日(金)
二十七日(金)
受付時間 午後一時～五時
(受付時間を延長しました)
電話番号 三八一三三〇〇

第五十一回 県展入選作品 (3)

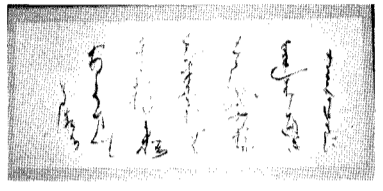


「波 涛」



高山信一郎さん

県北の桑川漁港で撮影した作品で、防波堤と港湾の波のバランスを考えてシャッターチャンス待ちました。



「君が世に... (新古今和歌集)」 中央町1 竹石千鶴子さん

墨色に留意して書きました。

新津南高校

「学校開放講座」のお知らせ

新津南高校の学校開放講座を1月から開講いたします。内容等については、次号で詳しく紹介いたします。

第二十一回高齢者スポーツ大会

(団体の部)
優勝 横水チーム
準優勝 小須戸チーム
三位 矢代田チーム
三位 鎌倉天ヶ沢チーム
五位 新保チーム
チャンケン大会
優勝 打合ノブさん(小須戸)
準優勝 高山キクさん(新保)
三位 笹川マスイさん(鎌倉)

リストアップ

テーブル花教室

「花が好きだから...」そう思っている人たちが、酒井先生を囲んで集まっています。会の始まりは、公民館主催の「テーブル花教室」でのフラワーアレンジメントでした。それ以来、六年になります。暮らしに欠かせない花。私たちは毎日の生活の中でなにげなく花に接し、花を飾って楽しんでるはず。どんな人でも花を見たら、心がなごみ穏やかなやさしい気分になるものです。ちょっとしたコツを先生から教えていただき、見違える程の姿になった時は感激です。また、昨年の秋にはMOA箱根美術館を訪れる機会に恵まれ数々の美術品を目の前にし、何か視野がまたひとつ広がった様な気がしました。現在、会員は十名、年令層は幅広く、若い人から年配の方までさまざまですが、みんなそれ



俳句
大寺の菊のご紋や木下暗
塔頭の鐘炎天にカテドラ
昏るまでつかずはなれず行々
雨あがり青田の果ての海光る
雨後の日の燦と万緑盛り上がる
魚釣りに行くことだけの父の日よ
柿若葉肩揉む孫の指力
形代の末尾にわが名納めけり
安達キヨノ
村山又雄
藤井 春
篠田悦子
間野良遊
五十嵐香月
小林富沙子
田中美根子

歌
散策の白きブラウス軽やかに風待月
はひとの恋しき
病む友と語りおれば紫陽花に梅雨
の時間の淡き光さす
万葉の歌くちさみ橘の友と障子洗
ひし佐保川わたる
健やかに早朝の仕事の草老り朝湯に
浸る老いの幸せ
野俣玲子
村山浩子
我妻清作
長井武雄

川柳
日本海眼下にせいす露天風呂
去年着た水着が嘆く脂肪過多
潮鳴りもやさしく安吾へ子守歌
国会に海千山千たむろする
長井武雄
保科志枝
吉田みな
加藤米二

柔道個人男子五五kg級に吉田朗君(水田) 全国中学校選抜体育大会に出場!!

▶お知らせ...第6回町民親善ゴルフ大会は10月4日(金)に決まりました。